

自転車とマナーと私と

秋山 芙美

現代で自転車というと、狭い道・スペースなどがないという所でも使いやすく、手軽に購入でき、今最も注目されている二酸化炭素削減のエコにもなり、幼児からお年寄りにまで誰もが乗れるという非常に便利な乗り物というイメージがあります。もちろん、私もそう思っています。しかし、その便利なものも使い方やマナー違反によって不便なものへとなってしまう。

例えば、私の住んでいる町や市の駅前などは、自転車がたくさん止められてありますが、止めてはいけない所に止められていたり、止めっぱなしの自転車もよく見かけます。それを見て、「止めておいてもいい場所」と認識されて、違法駐輪が増加していきます。他にも、山などに自転車が大量に放棄されて捨てられています。これは、自転車だけに限ったことでもないと思います。

これらの例を考えてみると、自転車を違法駐輪・放棄しておくことは、公共の雰囲気を乱すばかりでなく、人にも大変な迷惑がかかります。それだけでなく、森林などの自然環境を崩していくこともあります。そして結局、そのような自転車は処分されていきます。これでは、便利なものであった自転車は不要なものとなっっています。自転車は、便利なものでもあり、不便なものでもあるのです。

このような問題は目をそらしてはおけないものとして、私なりの解決策を考えました。それは、リサイクルを今以上に推進していけば良いと思います。私の住んでいる町のリサイクルショップでは、不要となった自転車を無料で引き取ってくれ、またそれを修理して売る、というのがあります。自転車販売店でも新しいのを買えば、今までの古い自転車を引き取ってくれるというのもあります。例えば、リサイクルでなくとも壊れたら捨てて新しいのを買う、というのではなく、修理に出して

もう一度使えるようにすることも大事だと思います。これらによって、環境に優しく、放棄・違法駐輪する自転車の数も減り、地球に、人に配慮した自転車へのマナーができていくのだと考えます。しかし、もちろんリサイクルも大事ですが、それを含めた一人一人の気持ちのマナーも良くしていくと、更にい

い方向へいくと思います。

これからの未来は、何かとマナーや環境について今以上に叫ばれるでしょう。だから、たった一人、されど一人でもよくなれば、自転車のマナーの認識が今までとはちがったものになってくると思います。まずは自転車に對して私達ができることを考え、それを行動にうつしていく、これが今の私達にできることです。このことを自分自身の心に深く刻み、これからも自転車のマナーについて考えていきたいです。